



日本カトリック海外宣教者を支援する会

巻頭言

東ティモールの人々の素朴な信仰の力

聖心侍女修道会 中村 葉子

日本宣教会が2015年に催した学会で、フランシスコ会の本田哲郎神父様が次のように話された、とウェブサイトで読みました。「(講師は)『宣教は種蒔きか、刈り入れか』として、種蒔きはすでに神によって行われていることを、教会が謙遜に受け入れるべきであるとした。神の子が受肉したことで種蒔きはなされており、宣教とは受肉の神秘をすべての人々に見出して、人間を大切にすることであるとした」。

日本国内で、また世界の他の国々で働く宣教者の多くが、本田神父様のこの言葉に共感されるのではないかと感じています。

私自身は2003年から東ティモールで働いていますが、キリスト教を熱心に伝える、というより、神によって人々の中にすでに蒔かれた種を発見し、そこから学ぶことの方が圧倒的に多いです。

東ティモールは4世紀半、ポルトガルの植民地でしたが、1975年に隣国インドネシアに侵略され、24年間占領されました。その間、人口の3分の1が命を落と

♡♡もくじ♡♡

巻頭言	1
第70回運営委員会議事録	3
宣教者からのお便り	4
ECHO	8
こんにちは!お久しぶりです	9
海外宣教者のお話を聞く会	9
新入会員・事務局より	12



す、という 20 世紀の戦争としてはカンボジア戦争に次ぐ大きな戦争に苦しみました。2002 年に国際社会が認める形で独立を果たしましたが、過酷な戦争体験の結果として民族内の分裂が、独立後何度かあらわになりました。私が住んでいる首都ディリのベボヌック地区は、そうした分裂が最も激しい地区の一つでした。2006 年の危機では、隣家が暴徒によって焼き討ちに遭ったり、何人もの人々が襲撃、殺害されたりするのを身近に見てきました。その余波は 2015 年まで続き、行政機関や平和団体などが何度和解行事を企画しても、一向に収束しませんでした。

ところが 2015 年のことでした。東ティモールへのカトリック伝来 500 年記念に『青年の十字架』が、聖母マリア像と共に全国すべての小教区を廻りました。この『青年の十字架』は、インドネシア時代に抵抗運動で重要な役割を果たしていた青年たちを勇気づけるために、ノーベル平和賞受賞者ベロ司教によって始められた信心業で、カトリックの信仰に現地信仰を巧みに組み合わせたものです。ベボヌック地区の儀式では、前晩に対立するメンバーが集まり、山羊などの動物を屠ったり、酒を飲んだり、屠った動物を共に食べるなどした後、今後一切暴力事件を起こさないと誓い、翌朝、ミサで真の和解がなされました。誰も驚くばかりでしたが、この行事の後、ベボヌックは完全に平和な地区となり、現在に至っています。

最近列聖された聖パウロ六世教皇は、使徒的勧告『福音宣教』の中で、「民間信心は素朴で貧しい人々のみが知りうる、ある神への渇きを示していて、信仰告白が問われるときは、人々に自らをささげて、熱心に徳の頂点に至らせる力を与えます」と述べられました。

今年もクリスマスを迎えます。私たち一人ひとりが、貧しさの中で人となられた主イエスを、すべての人の中に見出し、彼らの幸せのために尽くすことができますように。



□■□ 第70回運営委員会議事録 □■□

日 時：2018年9月8日（土） 15:00～16:30

場 所：六本木・聖ヨゼフ修道院 2階会議室にて

議 事

I. 「きずな」144号について

- ・1年間の会計報告・活動報告・次年度予算・会計監査報告等を掲載した。
- ・菊地大司教の巻頭言は、好評であった。アフリカの地図を入れたのもよかった。

II. 「きずな」145号について

巻頭言は、聖心侍女修道会 Sr. 中村葉子に依頼することになった。

III. 援助申請審議

1. チャド ショファイユの幼きイエズス修道会 Sr. 平 静代より、現地の高校に通う寮生のための、パソコン一式200,000円申請があり、現在女子寮にはないため必需品であることなど検討した結果、支援を決定した。
2. ハイチ共和国 ショファイユの幼きイエズス修道会 Sr. 小井手恵美子より、貧しい診療所の資材充実のため、器材等一式\$6,200(=¥688,200)申請を検討し、支援を決定した。
3. バルー イエスのカリタス修道女会 Sr. 秋永みすえより、アントニオカヴオリ学園の存続のため、至急諸設備対策費用一式\$9,298(=¥1,032,078)申請があり、検討した結果支援を決定した。
4. インドネシア 聖心会 Sr. 井上千寿代より、ジャカルタ・ムバタ村、ムバタ教会等、宣教活動移動車両購入費の2分の1¥1,300,000の申請があり、検討し支援を決定した。

IV. その他

1. 「きずな」発送について

国内便は9月6日（木）瀬田修道院にて12名で行ない11:30に終了。持ち帰りも含め計3,250通。

2. 事務局扱い分は、9月7日（金）海外発送149通、国内大口28通。

3. 当会の案内パンフレットは長らく改定しておらず、文章、写真、デザインとも全面的に見直すことになり、検討した。

4. 海外宣教者の名簿は3年ごとに改定されるが、今年はその年に当たり、各方面に確認を依頼。その返信の締め切りが9月11日なので、編集作業にはいる。

5. 「海外宣教者のお話を聞く会」

10月27日（土）四谷ニコラバレのホールで行われる、菊池功東京教区大司教の講演について、役割分担等を検討した。

6. 今年もクリスマスカードの作成をする。

★次回運営委員会 12月8日(土) 15:30～

★年末・年始の事務所のお休み 12月25日(火)～1月7日(月)



宣教者からのお便り



メキシコ

◆チアパス◆

子供たちにたくさん本を読ませたい

ベリス・メルセス宣教修道女会 真神シゲ

私はメキシコのチアパス州のサンクリストバルデラスカサスという山あいの町にある修道会に、ローザというシスターと2人で住んでいます。交通機関はバスばかりで、車もなく発展性がありません。これまでメキシコ政府はマヤ人を重視せず、学校など教育機関がそろったのは21世紀になってからです。それは選挙で大統領が替わる度に、前にでき上がりつつあるものがすべて、中断か壊されてしまうからです。公用語はスペイン語ですが、周りに78のマヤ人の部族がありそれぞれの言葉があります。ですからミサはスペイン語での福音朗読のあと、いろいろな言葉に訳されますので、とても長くかかります。

こちらでは何につけても「ほう、れん、そう(報告、連絡、相談)」の習慣がありませんので、何事もまったく動きがつかめません。現在いるところでは新聞もないため、外の事を知る手立てがありません。そんなわけで、小学校6年間で勉強する事は非常に少なく、大変遅れていると思います。

75歳でメキシコに派遣され、81歳になりま

した。今の仕事の2本柱の1つとして、メキシコは薬草の国なので、畑で数々の薬草を育てて村人に渡しています。かつて病気が蔓延した時があったので。近い病院といってもバスで2時間くらいのところですから、交通費もかかるし1日つぶれてしまうので誰も行くことはほとんどありません。私自身、一時帰国して歯医者さんに通いました。その歯医者さんは何故ここまで放っておいたかと驚かれ、事情を話すと治療費をすべて無料にしてくださいました。本当に感謝です。

もう一つの仕事は、子供たちにいろいろな本を読ませたいので集めています。借りても返却する習慣がないので、私の仕事は「貸し出しノート」をつけることから始まりました。そうしないとあっという間に本も、物も消えてしまうからです。献金を貯めてはスペイン語の本を買っています。

また、こちらでは離婚も多く、置き去りにされた妻子が路頭に迷うと修道院にやってきます。そんな時、若干の貯めたお金を渡して家族を助けます。教育も行き届かず、20歳以上の人で学校に行かなかった人も多いです。食べ物も作れても、教育はそう簡単に受けることができないので本当に問題です。騙されたりすることも多いのです。いくら言っても、人々はその場しのぎのお金のために、国や金持ちに川の使

用権を売ってしまい、結局、自分たちは水を買っているのです。貧富の差は激しくなるばかりで、貧しい人々は何も持っていないのです。

日本からいただいたカレンダーは学校教育に大変役に立ちました。それは文化の違いや、カレンダーに書かれている休みなどの内容が違うために非常に面白い勉強ができました。

今回一時帰国できましたが、次はいつになるか分からないし、メキシコからの飛行時間に耐えられるか不安ですし、あちらにずっといることになるかも知れません。

チャド ◆ライ◆

寮生にパソコンとプリンターを

シヨファイユの幼きイエズス修道会 平 静 代

この夏は日本全国、暑い暑いと悲鳴が上がっていましたが、私は本土の暑さを避けて郷里の奄美で、老いた母のもとで2週間過ごしてきました。これから年の黙想に入ります。

この度パソコン、プリンターのご支援を申請しました。現在、女子寮にはパソコンはありません。常々その必要性を考えていました。若者が現代の情報社会に生きるためには大切なことですから。今年度、高校の併設に伴って、商業科と普通科が置かれることになりましたが、工事が遅れ、パソコン教室での授業は9月の新年度から始まります。商業科に通う寮生には予習復習のために、普通科の寮生にも文章作成ができるよう指導したいと思っております。

電気の使える時間は、午前7時から午後1時まで、午後5時半から夜9時までと限られてい

ます。寮生は夕方から夜の時間帯での使用となりますが、若いので習得が早いと期待しています。進学や卒業後の就職にも有利なことでしょう。まだまだ電気の使用に制限はありますが、若者が新しいものに触れ、挑戦するチャンスを作るのが私たちの務めと思い、ご支援をお願いいたします。

シエラレオネ ◆ルンサ◆

戻り来てここが我が家とホッとする

御聖体の宣教クララ修道会 白 幡 和 子

昨年の12月17日、2年半にわたる膝の治療の後、無事に戻ってこられてホッとしました。「シスター、昨夜はよく眠れましたか」「食事はどうですか」「膝はまだ痛みますか」などと街角で、学校でみんなが心配して聞いてくれます。私のことを思ってくれるほど私はみんなことを思ってきたでしょうかと、反省しています。

この春の大統領選挙では、教育無料化をモットーにした新しい大統領が当選しました。小学生には年に30,000レオネ、中高校生には50,000レオネ(8,500レオネが1ドル)が支払われるそうですが、それだけでは学校はやっていけません。また、新大統領の命令で、毎月第1土曜日は「大掃除の日」となり、朝8時から午後3時までには外出禁止になり、警察の人が見はっているようです。

復活祭の後に1週間のお休みがあり、クララ会のシスターたち全員がルンギの修道院に集まっていたある日、突然ヨゼフという若い男の人がバイクでやってきました。左足にすごく

厚い包帯を巻き、杖を突いてやっと歩いていました。11年前から足の傷が治らず、ガーナの病院でもよくなり、お金を使い果たしたので交通費の助けを求めてきたのです。4人のシスターが献血を申し出て病院に行きましたが、結局、300,000 レオネを支払って手術に臨みましたが、300,000 レオネは私たちにとっても高額ですが、命には代えられません。彼は10日後に無事退院し、泣いて感謝していました。

7月20日に学校の年度が終わりましたが、今年から高校4年が廃止され、高3の生徒は西アフリカ共通の試験を受けることになりました。高3の生徒は夏休みを返上して補習に励んでいます。私は1月から中高の図書館で奉仕してきました。アフリカに来る前に司書の勉強をしたことが、50年以上もたった今になって、役に立つとは！図書室で読んだ本を、元の場所に戻すこと、沈黙を守ることから始めています。

7月6日に東京の帝国ホテルで「第50回社会貢献者表彰式」が行なわれ、シスター吉田と私たちの長上であり校長のシスターエリザが出席しました。私は初めから出席するつもりはありませんでした。なぜなら、せっかく戻ったのに日本に行ってまた帰れなくなったら困りますから。私はここにいるだけで、表彰されるようなことは何もしていませんが、そんな私が表彰されたのは皆さんのおかげです。ありがとうございました。



カンボジア ◆シェムリアップ◆

3つの活動を重点的に

シヨファイユの幼きイエズス修道会 黒岩 あつ子

戦後の日本も外国からたくさん助けていただいたお返しに、私たちは2002年アジア宣教のために派遣され、身近であったカンボジアに入りました。市内から車で20分くらいの村に行きました。現地の教会の神父様とお話を重ねて、その村で目にした子供たちのために、識字教育のお手伝いを始めました。続いて家庭訪問なども行ないました。

まず、衛生教育に取り組み、シャワー（お風呂）を始めました。次に英語を教えたりしましたが、もう一つの柱としての活動は栄養不足の子供たちに「おかゆ」を配る栄養補給を行ないました。



一斉に絵の撮影



一緒に歯磨き

5年過ぎた頃には土地も買い、建物を建てて「プレスクール」を無料で行なうことができるようになりました。自慢はお休みする子供はほとんどいないこと。特に貧しい子供を支援することが目的であり、お金持ちの子供に特別入学を許すことはありません。学校での宗教教育はご法度ですが、やりがいのある活動です。子供たちは卒業すると、隣にある小学校に通うことができます。

カンボジア ◆コンポルアン◆

歯科検診と歯磨き指導

JLMM (信徒宣教者会) 井手 司

カンボジアでは10月8日～10日にかけて「プチュン・バン」といわれるお盆を迎えました。水上村でもお盆のためのミサが捧げられました。多くの信者さんが来られて、先祖のためにお祈りすることができました。ミサ後の食事会でも皆さんと食事を楽しみ、素敵な時間を過ごせました。

今年も、ヘルシーオーラルプロジェクトの歯科医や衛生士の皆さんが水上村を訪問してくれました。子供たちに歯磨き指導、歯科検診、フッ

素塗布をしてくれました。今回の検診などのことを、通学している子供、近隣の歯が痛い子や受診したい子供たちに告知したので多くの子供たちがやってきました。村人から、大人も検診を受けたいのだがと相談されましたが、今回は子供だけとなりました。

まず、歯磨き指導では「自分の歯ブラシを持っているか」「毎食後歯磨きをしているか」「虫歯ができて歯が痛いか」など質問した後に、模型やポスターを使って、歯の大切さを説明。ポスターにはなぜ虫歯になるのか、なぜ歯周病になるのか、体に良い食べ物とよくない食べ物などわかりやすく説明してあります。検診の結果は、乳歯の8割が虫歯でした。そのあとフッ素塗布をしてくれました。塗布後はフッ素の効果を保つために30分はうがいをするのを我慢しなければなりません。子供たちは10分くらいで我慢の限界が来てしまいました。

歯磨きの指導は、私も日本の支援者からいただいた歯ブラシを使って定期的に行なっています。現実には家庭では親が歯磨きの大切さを子供に言わないので、家でも食後に歯磨きをしていないのだと思います。これからも歯磨きの大切さを、継続して伝えていきたいと思っています。



ミサ後の食事会



検診&フッ素塗布

フィリピン

◆マニラ◆

フィリピンで修道会に入会

聖アウグスティヌス悲しみの聖母修道会 奥田久子

皆さま、初めまして！私は1883年にフィリピンのマニラで創立された修道会に、2009年に入会しました。会はフィリピンで20数校の学校を運営し、病院、養護施設、学生寮、黙想の家などの管理をしています。私はマニラ、ボラカン州、ラグナ州、セブ島などの学校で日本語を教えています。修道生活は日本でもフィリピンでも余り変わりはないと思いますが、ご聖体の秘跡とゆるしの秘跡が信仰生活の中心です。聖アウグスティヌスの修道会則を忠実に実行するのは簡単ではありませんが、挑戦していきたいと思います。

現在、ボラカン州ギギントにある施設に派遣されています。保護の必要な7～15歳くらい



★平穏な日本での生活を捨てて行かれる宣教者の皆さんに尊敬の念を覚えます。

(東京都港区 高橋菜穂子)

の子供29人がいます。昼間は公立学校に通い、卒業すると施設を出て修道院などに住んで働きながら大学に通っています。施設の運営費は政府の援助と、修道会や国内外からの寄付で賄われています。

○フィリピン人の信仰

約300年間スペインの植民地であった。人口の90%以上がカトリックといわれているが、プロテスタントなどへの改宗者も多く、実際に主日のミサに参加するのは、その3分の1くらい。車のフロントガラスには、たいていロザリオがかけられている。

○フィリピン人の日本観

日本のアニメなどはテレビでもお馴染みで、日本に対する興味は大きい。出稼ぎ先としても人気があり、日本語学習の需要がある。しかし、第二次世界大戦での日本人の残虐さは大きな傷として依然残っていて、次世代に語り継がれている。

★ペルー、リマの小さな学校へ、またカンボジアの子供たちへの支援にさせていただきたく送金します。

(福岡県北九州市 かどもと眼科)

悲しいお知らせ

9月13日、アジジの聖フランシスコカテキスタ宣教女在俗会のイルマン・クレセンシア前川サワエさんが亡くなりました。1934年熊本県生まれ。サンパウロで1974年から2010年までの40年間献身的に働きました。料理も上手でした。修道生活は質素で謙虚、年老いてからは多くの苦痛に耐え、視力の低下や身動きの不自由さに耐えました。初七日のミサはジャラグアの本部修道院で捧げられました。

湖（アコソボンダム）を作り、一時はそれで全電力を賄った。1890年ドイツでの会議で植民地の線引きが行なわれ、イギリスの植民地となったが、1957年いち早く独立した。アクラのカテドラルはドイツの神言修道会が管轄していた。

私が派遣されたのは、山の中にあるオソソソ村の「ルルドの聖母教会」で、信徒は3,000人位。さらに22～3の巡回教会があり、幾人かのカテキスタ（多くは教師がボランティアで）がリーダーになって担当していた。着任した翌年、800の小中学校の教師の給与のことから政府と教会が対立、ある期間聖職者の入国が禁止されてしまった。村で唯一の車、ランドクルーザーを駆使して、通訳もかねたカテキスタの一人と村を廻り、ミサをし、洗礼を授け、病人を運んだ。



（以下、画像を見ながらの説明）

★時に家族の写真を撮るが、大家族制度で家族関係がわからないほど親戚と一緒に住んでいる。貧しくても決して見捨てず助け合って生活している。

★発電所から近いのに教会には電気は来なくて発電機を使っている。水は雨期に大きなタンクに雨水を貯め、その後の乾燥期に備えている。

★家庭でそろって食事するとか、楽しく食事する習慣はない。一人暗いところで食べる。ある時、お昼過ぎにミサが終わったら、お昼をどうぞといわれ、暗い牢獄のようなところに連れていかれた。

★暑い国でも祭服を着るのは必須、しかも色の異なるリバーシブルの祭服。暑い！

★皆制服が好き。CYO（クリスチャンユースオーガニゼーション）という、ボーイスカウト・ガールスカウトと一緒にしたような団体のネクタイの制服は人気。

★ガーナの女性は荷物を担いで売り歩く。週に2、3回オープンエアマーケットも開かれるが、女性の売り歩く姿が流通システムそのものである。

★かつて山は森林であったが、人々が煮炊きのために木を伐採し、後に植林をしないためはげ山に。そこに雨が降って削り取られ、周囲は岩山となっている。

★こちらのミサは時間がかかる。英語で福音が朗読された後、各部族の言語に訳されるから（部族が少ないので聖書が作れない）。

★ミサの最中、献金が2回ある。聖歌隊がドラムのリズムと共に歌い、信徒は踊りながら祭壇の前に進み、戻るときも同じようにするので時間がかかる。この献金は神父への謝礼。聖体拝領後の2度目の献金は、教会のためとなる。さて、どちらが多いのか？



★ご聖体の祝日の聖体行列は大変盛大に行なわれる。祭りに部族の長がのる「輿」のミニチュアを作り、聖体顕示の台にご聖体をのせて村中を廻る。

ウガンダそしてルワンダ

日本に帰ってから「カリタスジャパン」にかかわっているが、ウガンダからの援助申請が山のように来ていた。1994年現地に出向き確認すると、すべて偽物。その後は直接事務局長とやり取りをし、「持続可能な農業支援プログラム」をずっと援助している。その折、北部のグルーにある難民キャンプを訪ね、初めて難民の実情を知り驚いた。20数年にわたり、キャンプの安全、特に女性子供を守る警備がいるということにも（このキャンプは2006年に閉鎖された）。難民キャンプにいる人々は、自分たちは世界から忘れ去られてしまった存在として、悲しんだりあきらめたりして無気力になっている。このことは難民キャンプだけでなく、国内外の災害現場においても人々は同じように感じている。

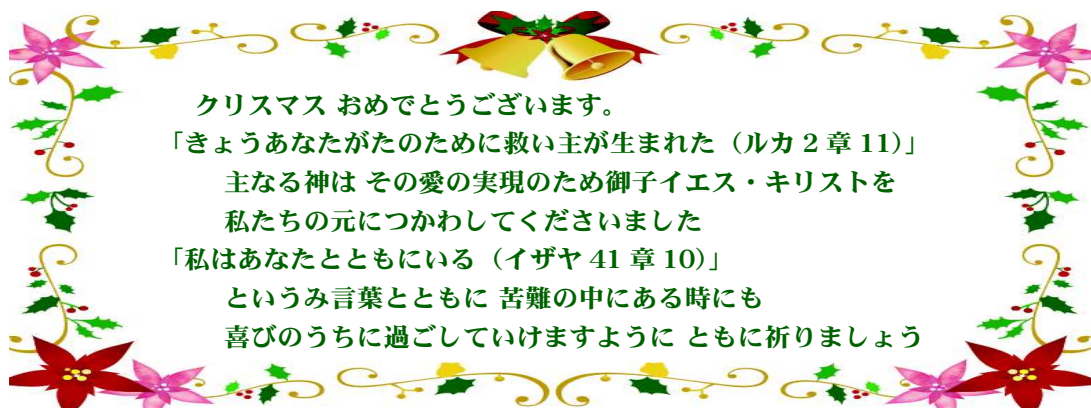
また、ルワンダで度々繰り返された虐殺。1995年、信徒5,000人のンタラマ教会では全員が、また、その数か月の間に180万人が殺害された。ルワンダはカトリックの国（国民の8割が信徒）であり、その数年前に教皇がルワンダを訪問されている。宣教が成功している印象があるが、ルワンダの度重なる事件を前にして、洗礼を受けることだけでなく、福音の力をしっかり伝えていかなければならないということを痛感した。そして、過酷な思いをした人々のことを、忘れてはならないと思った。

お話のしめくりに、聖書の二つのみ言葉を示してくださったので、いろいろな場面で私たちの心の糧としたい。



キリストがわたしを遣わされたのは、洗礼を受けるためではなく、福音を告げ知らせるためであり、しかも、キリストの十字架がむなしなものになってしまわぬように、言葉の知恵によらないで告げ知らせるためだからです。（コリント I 1-17）

女が自分の乳飲み子を忘れるであろうか。母親が自分の産んだ子を憐れまないであろうか。たとえ、女たちが忘れようとも、わたしがあなたを忘れることは決してない。見よ、わたしはあなたをわたしの手のひらに刻みつける。（イザヤ 49-15,16）



クリスマス おめでとうございます。
「きょうあなたがたのために救い主が生まれた（ルカ 2 章 11）」
主なる神は その愛の実現のため御子イエス・キリストを
私たちの元につかわしてくださいました
「私はあなたとともにいる（イザヤ 41 章 10）」
というみ言葉とともに 苦難の中にある時にも
喜びのうちに過ごしていけますように ともに祈りましょう

新 入会員 (敬称略)

個人会員 3名

高橋 菜穂子（東京都港区） 柳下 朋子（埼玉県さいたま市） 飯田 恵美子（東京都狛江市）

事務局よりご報告とお願い

- * 10月27日（土）の菊地功東京教区大司教による「海外宣教者のお話を聞く会」は、多くの方にお越しいただきありがとうございました。当日お出でいただいたのに、消防法の入場者制限によりお入りいただけなかった皆様、本当にお許しください。次回またお待ちしております。また、当日のご寄付合計は¥54,000でした。御礼とともにご報告申し上げます。
- * 2019年4月より、郵便局窓口での払い込み手数料が130円→200円になります。またATMでの手数料は80円→150円になりますので、「きずな」と一緒にお送りしている払い込み取り扱い票を、会費およびご寄付の送金にご利用ください。
- * 今年もたくさんの未使用の切手や書き損じのはがきをご寄付いただきありがとうございました。通信費の一部に使わせていただいております。これからもご協力をお願いいたします。
- * 皆様、一年間お世話になりました。どうぞよいクリスマスをお迎えください。2019年もよろしくお願ひ申し上げます。事務局の冬休みは12月25日～1月7日です。

発行：日本カトリック海外宣教者を支援する会

会長 M. マタタ

〒106-0032 東京都港区六本木4-2-39

Tel. 03-5770-8753 Fax. 03-5770-8754

e-mail kaigai-senkyo@cronos.ocn.ne.jp URL <http://www.kaigai-senkyo.jp>

- ・銀行振替口座 みずほ銀行高田馬場支店 普通 2084112
日本カトリック海外宣教者を支援する会
- ・郵便振替口座 00140-5-67881 海外宣教者を支援する会